

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（三）

学・献・遊

遊ぶは仕事、仕事は遊ぶ
遊ぶは仕事、仕事は遊ぶ
仕事は学び、学びは仕事
仕事は学び、学びは仕事
学ぶは遊ぶ、遊ぶは学ぶ
学ぶは遊ぶ、遊ぶは学ぶ

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まりました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さへこそ動がるれ。**
（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることになります。

この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中で的人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していききたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもある形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三

遊

遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○強者は創造する 弱者は模倣する、と種田山頭火 外から日本を見る視点
どの世界も成熟化すると平準化しがち 自分の人生の辞書は自分でつくる
若手を決して単なる頭数として見ない 敗戦処理に使うのはもつてのほか
変わらぬ商人の掟 始末すること、才覚を発揮すること、算用が働くこと

○ピカソは七種のグレーを使い分け 緑系や紫系のグレー、仮説・検証のプロセス
日本は才能より努力を評価・称賛 ユニークなアイデア・能力の格差には不寛容
世界村の時代 組織や個人、技術／スキルの強い・弱いの評価基準を再設計する
すべてを改めて客観視する 動中の工夫は静中に勝ること百千億倍、と白隠の書

○私の望むのは少数とともに闘うの意地である、との強い思いは思想家の内村鑑三
意地という言葉は近ごろ聞かない 数十年後の評価を大事にする風土と関連する
意地を張るだけの志・夢は少なくなつたが 人間社会は、意地をなくしたら砂漠
自分の中の本能・野生・才能を目いっぱい開放していく 孤立をやたら怖れない

献

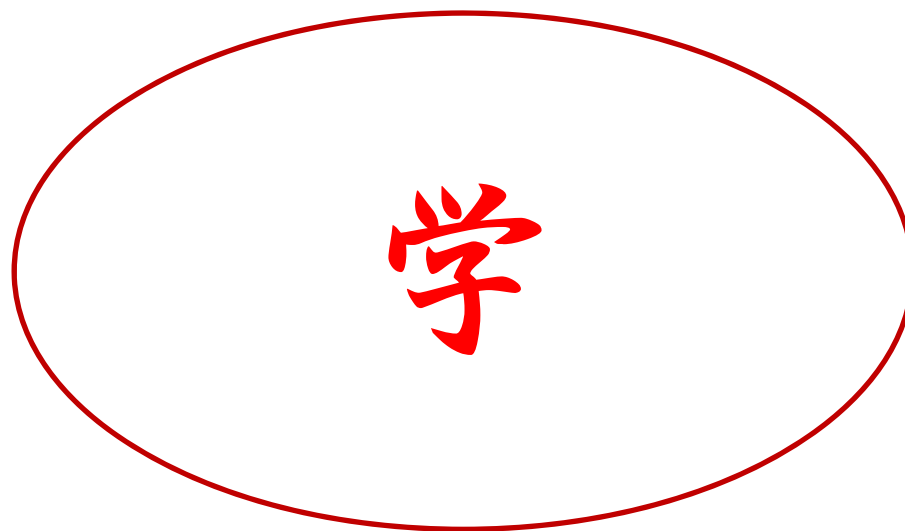
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○世界大恐慌の時代、米国でも首切り一辺倒だったわけではない
米国IBMは雇用を死守し 研修・訓練で飛躍の機会を待った
それを見抜き、IBMの成長を確信したピーター・ドラッカー
日本の松下幸之助も 事業は人なりと、首を切らず教育に注力

○事業とデザイン、デザインの意味が変化 意匠だけではなく、アイデアや計画を包含
顧客の意向を重視して、顧客の夢の実現に応える デザインはあくまで双方向で推進
顧客の反応をみてデザインのコアを固める 韓国の躍進、日本製造業への冷徹な分析
技術では一歩及ばなくともデザイン力で勝負できると見抜く 負けない自信を強める

○ピカソのキュビズムは 他を圧倒するだけの、デッサン力があつてのもの
ビジネス 直観が土壇場では成否を分ける、その背後には鍛え抜いた論理
論理の量が直観の質の深化を生む プロジェクトでは失敗が後を絶たない
論理レベルを乗り越え感性・直観を重視 プロジェクトは祭りと得心する



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○ 歩けなくなっても挑戦する セザンヌは杖をつきながら描く意欲を持ち続けた人が見えないものを、しっかりと観察する 直観を大切にする、想像力を解き放つ人に頼るだけでは限度がある 向上したい、学び続けたいという思いこそ第一根性論だけの努力に依存せず 合理、不合理を併せ飲んだ総合的な知性を磨く

○ 物事を考えるタメが足りない想像力が弱体化 現状に留まり成長に繋がらない火床（ひどこ）をつくること 単なる専門的知識でなく、複雑性を内包する知恵人間と人間の間には、無根拠で信頼していい自明の信義がある、とはマキャベリ親鸞の身心柔軟、価値の本質を突く 未完で生まれたのだから、未完を怖れない

○ 宝が眠る場所こそ人の心、とハプスブルグ家 頭で考える前に心眼で観察する成功する人間は、失敗の反省もしっかりするが 成功の内省も手堅く怠らない生きる道具を大事にすると 道具も人間の期待に応えて、成功に導いてくれる武士は、トンボを勝虫と改名 トンボもムカデも、死を前に絶対後退りしない

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（三）」（**抜粋**）

著者 大浦勇三

二〇二二年七月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。